

文書分類番号	00	09	03	002	永 年	起案	平成 年 月 日	決裁	平成 年 月 日
議 長	副議長	局 長	次 長	主 査	主 査	担 当	文書取扱主任		

第 13 回 総務文教常任委員会 会議録

開催年月日		平成 20 年 9 月 2 日（火曜日）		開会 9 時 59 分		閉会 10 時 40 分	
開催場所		第三委員会室					
出席委員		本間、三上、窪之内、関藤、大谷、井上 議長				事務局	中嶋事務局長
							田湯次長
欠席委員		なし					寿崎主任主事
説明員		別紙のとおり					
議 件		別紙のとおり					
議 事 の 概 要	1 請願第 5 号「道路整備に必要な財源の確保に関する意見書」の提出についての請願 (平成 20 年 7 月 25 日付託)						
	(1) 討論						
	なし						
	(2) 採決						
	全会一致により採択することに決定し、委員長付託事件審査報告については次に開催 される本会議において行うこととした。						
	2 所管からの報告事項について						
	次の事項について所管から説明を受け、質疑を行い、報告済みとした。						
	(1) 補正予算概要について						
	追加○学校の適正配置に係る保護者アンケート結果について						
	追加○平成 20 年度全国学力・学習状況調査結果の概要について						
	3 その他について						
	滝川工業高校土木科の存続について議会対応の確認をした。						
	4 次回委員会の日程について						
	正副委員長に一任することにした。						
上 記 記 載 の と お り 相 違 い。 総務文教常任委員長 本 間 保 昭 ㊦							

平成20年9月1日

滝川市議会議長 中 田 翼 様

滝川市長 田 村 弘
滝川市教育委員会委員長 若 松 重 義

総務文教常任委員会への説明員の出席について

平成20年9月1日付け滝議第90号で通知がありました総務文教常任委員会への説明員の出席要求について、次の者を説明員として出席させますのでよろしくお願いします。

なお、公務等の都合により出席を予定している説明員が欠席する場合がありますので申し添えます。この場合、必要があるときは、所管の担当者を出席させますのでよろしくお願いします。

記

滝川市教育委員会委員長の委任及び滝川市長の委嘱を受けた者

教育部長	高 橋 一 昭
教育部指導参事	早 瀬 公 平
教育部学校教育課長	吉 川 修
教育部学校教育課副主幹	杉 原 慶 紀
教育部学校教育課主査	土 橋 祐 二
教育部学校教育課心の教育推進室長	水 林 俊 治

(総務部総務課総務グループ)

第 13 回 総務文教常任委員会

H20. 9. 2 (火) 午前10時00分
第三委員会室

○ 開 会

○ 委員長挨拶（委員動静）

1 請願第5号 「道路整備に必要な財源の確保に関する意見書」の提出についての請願
（平成20年7月25日付託）

（1）討 論

（2）採 決

2 所管からの報告事項について

《教 育 部》

（1）補正予算概要について

（資 料）学校教育課

3 その他について

4 次回委員会の日程について

○ 閉 会

開 会 9 : 5 9

委員動静報告

委 員 長

全員出席。議長出席。空知新聞社の傍聴を許可。

1 請願第5号「道路整備に必要な財源の確保に関する意見書」の提出についての請願（平成20年7月25日付託）

（1）討論

委 員 長

前回の委員会で確認したとおりこれより請願第5号に対する討論に入るが討論をお持ちの方はいるか。（なし）

これにて討論を終結する。

（2）採決

委 員 長

これより採決に入る。請願第5号「道路整備に必要な財源の確保に関する意見書」の提出についての請願を採択することに異議はあるか。（異議なし）

異議なしと認める。よって本請願については採択することに決した。

委員長付託事件審査報告については次に開催される本会議で行うこととし、報告書の文案については正副委員長に一任いただくことでよいか。（よし）

そのように決定する。以上で本委員会に付託された請願第5号に対する審査を終了する。

2 所管からの報告事項について

（1）補正予算概要について

吉川課長

（別紙資料に基づき説明する。）

大 谷

進路の時間を使うことになるのか。

吉川課長

講演は1時間と考えている。具体的には授業の2単位くらいを使い、講師の先生を紹介してから内容に入るようになると思う。教科で言えば総合学習の時間などをうまく組み合わせて活用し、中学校2学期の一番入りやすいところを学校と相談しながら進めていきたいと思っている。

大 谷

① 全学年を対象とするのか。また外部講師の謝礼は予算30万円の中から出るのか。今学校に配分されている総合学習の謝金とは関係ないかとらえてよいか。

② 学校では、総合学習の年間計画が決められている。工業高校の取り組みも大事だが、学校としての必要な時間が削られるということにならないように、十分に打ち合わせをし、慎重に進めていきたいと思う。その辺はいかがか。

吉川課長

①② 対象学年については校長先生ともよく話し合っ進めたいと思うが、とりわけ来年の入学者層の確保を最大の目的としている。全校生徒を対象とするとなかなか総合学習の時間帯を調整するのに難しくなり、進路を決める時期までにその授業が組めないということになると支障も起きる。その辺はねらいをきちんと決め、学校と進めていきたいと思う。既存の総合学習外部講師の予算については確保しているので、従来の学校の計画どおりに進めていただくことについては変わらない。

委 員 長

他に質疑はあるか。

窪 之 内

講演そのもののやり方も含めて研究する必要があると思う。中学生を確保するための大きなかぎを握るのはもちろん本人だと思うが、親御さんや担任、進路指導の教師の力がすごく大きいと思う。現状はわからないが、学力で振り分け

て残った人を工業高校へという指導をしているのではないかという気持ちが若干ないわけでもない。その辺の先生方の対応について、こういうことと同時に
行われているのか伺う。

吉川課長 今の指摘は重要だと思う。昨日、工業高校の校長や担当の先生方と懇談の時間
をとることができた。私も先生方と初めてこのことに関して話をした。その中
で、進路を決めるポイントは本人なのか親なのかという話も出た。中学校や高
校の先生方ならそういったことが一番よくわかると思う。中学校と工業高校の
先生が懇談する機会を設けて、その辺の仕組みや進路指導について意見交換す
ることで、どんな効果的なものがあるのかが見えてくると思う。話し合うこと
も1つの方策だと思う。また効果的なPRについては、工業高校側としてどん
な中身を子供に訴えたいのかがかぎとなるので、従来のノウハウや今までにな
い新しい訴えをぜひ進めてほしいと思っている。私たちはそれを一緒に取り組
んだり、自分たちでもできる知恵を出し合っていきたいと思っている。効果的
な形で進めていきたい。

窪之内 3者面談を行う時期が来るので、そういった時期に効果的なことができるよう
な方向を探っていただきたいと思います。

委員長 他に質疑はあるか。(なし)では私から伺う。
3者面談の時期はまだ先だと思うが、現況として希望の動向は把握されている
のか。

吉川課長 例年4月、5月の段階で本人の意向を調査する。その情報を各学校からいただ
いたが、その時点で工業高校に希望されている方は少ない状況である。これか
らの時期、学校の体験入学が予定されているので、工業高校から攻めの行動が
とれる。そこで生徒の関心を引きつけ、さらに今回提案するような支援策を打
つことで最終的に12月の段階で志願者がふえればいいと思う。子供の願いを聞
いて進路指導を進めることで、増につながっていければいいという気持ちであ
る。

委員長 生徒が工業高校に入りたいと思う気持ちが前提なので、どんな状況にあるのか
ということをしかりと把握しながら進めていただきたいと思います。
(1)については報告済みとする。

委員長 **○学校の適正配置に係る保護者アンケート結果について**
前回資料請求のあった学校の適正配置に係る保護者アンケートの各学校別の結
果について配付されている。これについて何か説明、質疑等はあるか。

井上 今回のは見やすい。前回配付いただいた資料もカラーでいただきたい。

委員長 後日、机上配付をお願いする。他に質疑はあるか。(なし)

委員長 **○平成20年度全国学力・学習状況調査結果の概要について**
もう1つ資料が配付されている。平成20年度全国学力・学習状況調査結果の概
要についてだが、これについて説明願う。

水林室長 (別紙資料に基づき説明する。)

委員長 説明が終わった。説明の中で詳細は後日報告ということだが、9月中というこ
とか。

水林室長 今月末を分析のめどとしているので、10月に入ってから報告になる。努力し
て進めたい。

委員長 質疑はあるか。

大谷 公表されたということだが、この文書を資料として使ってもいいのか。

水林室長	きょう配付した資料については、既に道のホームページにも載っている。活用していただいて構わない。
委員 長 議 長	他に質疑はあるか。 市内の学校間で格差が出ていると思う。学校名や数字等を出せないのは仕方ないと思うが、傾向やその格差を埋めていくような努力目標を含めた分析結果を出していただきたい。A学校とB学校では結果が違ってくるので、その辺を口頭でもいいので公表していただきたいが、いかがか。
早瀬参事	学校間の格差というのは固定されたものではない。例えば順位をつけたとしても昨年とことしでは変わっていたり、4教科あるが、それも昨年とは違っているということもある。昨年の生徒と比べてどうだったのかという比較にしかない。学校と学校を比較するものとは質が違ってくると思う。
議 長	そういうことすら今までは説明されていなかった。そういうことも含めて私たちは聞きたかった。昨年との比較や分析の結果はこうだったというようなことで結構なので公表していただきたい。
早瀬参事	各学校に改善ポイントをつくっていただいたので、それに合わせて頑張っている。ただ昨年度取り組み始めたのが1月21日であり、3月に入ってから改善ポイントをつくったので、まだその実践経過が浅い。今年は4月22日の実施だったので、今回その成果があらわれているのかどうかについては疑問を感じている。したがって、本当にこの学力学習調査を活用した取り組み成果があらわれるのは、来年の結果からではないかと思っている。昨年度は本年3月に各学校の学力向上の取り組みを計画していただいたが、今年度は早目に取り組んで来年につなげていきたいと思う。
委員 長 井 上 早瀬参事	他に質疑はあるか。 この調査は毎年行われるのか。いつまで行われるのか。 一応4月、第4火曜日だが、来年は連休の直前に当たるので、4月21日に実施するとの連絡をいただいている。この調査が何年続くかは確定的な情報はいただいている。
井 上	北海道教育委員会で緊急対策をやっているが、まだこの結果に反映されていないということなのか。
早瀬参事	私の憶測だが、滝川市の調査結果を出したのは1月21日。各学校に改善ポイントをつくっていただいたのが3月末。4月からそれを実践していただいたとしても4月22日のテストなので、わずか20日あまりしか実践をしていないことになる。1年間を通した実践がまだ根付いていないので、現在進行形だということを受けとめていただきたい。
井 上	いかに教育行政が遅いかということである。対策が反映されないような学力テストであれば、あまり意味がないような気がする。全国平均でどのような位置にあるかが非常に大事なことであるので、早急に実践が実るように頑張りたい。要望である。
委員 長 関 藤	他に質疑はあるか。 各小中学校の順位がどのくらいにあるか公表できないということだが、空知管内、石狩管内など学区分けにおいて、全道のどの位置にあるのかということは公表していただきたい。現実問題として、高校1年生の夏ころになると中学校と高校の学力のギャップにぶつかる。中学校はあくまでも基礎学力の範疇だが、高校へ行くと理数系についてはかなり専門的になり、大きなギャップが生まれ

る。中学校では基礎的なことができて100点をとっていた生徒も高校の数学になると50点をさらにとってくる。これが現実である。中学校のときにある程度勉強をやっている生徒と、そうでない生徒は高校に入ってから非常に大きな差が出てくる。それを中学校の段階で意識として子供たちに持ってもらうことが必要だと思う。そういう意味でも全道の中での位置づけを公表していただきたい。

早瀬参事

本年1月21日に昨年度の実施結果概要を公表しているが、その中では、全国の平均正答率、全道の正当率に対してプラスマイナス3%以内を同程度ということで発表する。それより差のあるものは上回っている、下回っているという表現をして公表をしている。その程度しかできないのが現状である。私たちが得ている情報は全国、全道、本市の状況しかないので、空知管内で本市がどうかはいくら頑張ってもデータがないので公表できないということである。

委員長

他に質疑はあるか。(なし)

教育部から何かあるか。

高橋部長

滝川西高軟式野球部全国大会の結果についてだが、28日に準決勝があり、ご存じのとおり作新学院に3対1で惜しくも敗れ、生徒は29日夜8時に無事滝川市に戻った。声援をいただき深く感謝を申し上げる。工業高校支援の関係だが、先週の29日、空知教育局の局長が来滝した。教育長が明石市に行っていて不在のため、滝川市長、教育委員長と会った。きょう道の教育委員会の会議があり、そこで今回の計画案の案が取れる見込みがあるという情報をいただいた。その道教委の結果が出てから正確な情報が来ると思う。案が取れた段階で先ほど説明させていただいた滝川工業高校の活性化を支援する会の皆さんと一緒に、より一層進めていかなければならないことだと考えている。委員の皆さん、議員の皆さんにおいてもいろいろな機会に工業高校の必要性などの話をさせていただきたいと思う。議案にない中身の話になったが、よろしく願いたい。

委員長

以上で教育部からの報告を終わる。

3 その他

委員長

何かあるか。

井上

先ほどの工業高校の関係だが、議会としての対応はどうか。

委員長

休憩する。

休 憩 10:39

再 開 10:40

委員長

再開する。道へ陳情をしている。

ほかに何かあるか。(なし)

4 次回委員会の日程について

委員長

次回委員会は正副委員長に一任願う。

以上をもって第13回総務文教常任委員会を閉会する。

閉 会 10:40